

平成28年度
障害者雇用職場改善好事例

奨励賞

株式会社グランドビジョン (福岡県福岡市)

障害のある社員がチームで「やりたい仕事、できる仕事」を提案し、モチベーションを向上。



- 1 モチベーションアップ
- 2 職務創出
- 3 社内の理解
- 4 職務遂行の工夫
- 5 コミュニケーションの改善・工夫
- 6 体調管理
- 7 支援機関との連携



[事業所の概要]

株式会社グランドビジョンは平成23年11月、福岡市において創業。広告代理店としての事業はもとより、クライアントの事業成長、課題解決に向けたプロデュース、マーケティング戦略から制作まで事業を展開。平成27年には従業員が100名を超え、同年2月に東京南青山にオフィスを、9月には福岡市内にコールセンターを開設。

従業員数 103名

[業種および主な事業内容]

広告業
(事業プロデュース、通販コンサルティング、WEB コンサルティング、コールセンター運営、ブランディング、採用プロデュース、メディア・イベントプロモーション、映像プロデュース、空間プロデュース)

[精神障害者等雇用の経緯]

社員食堂のスタッフとして平成22年より雇用を開始。多様性のある社会を作りたいという思いから、特別支援学校からの職場実習の受入れや採用活動を積極的に行ってきた。平成22年に2名、平成23年に2名を採用し、現在も同じメンバー4人が継続して勤務している。

[紹介内容]

発達障害、知的障害

【従事作業】

社内外の清掃、郵便物配達、調理、農園作業、社内広報誌の発行、備品発注、名刺入力作業

[障害者の雇用形態・勤続年数]

雇用形態	正社員	週の労働時間に変動なし	
		週の労働時間短縮等の変動あり	
	パート	週の労働時間が 30 時間以上	4名
	アルバイト	週の労働時間が 20～30 時間未満	
		週の労働時間が 20 時間未満	

勤続年数	～2年未満	
	2年～3年未満	
	3年～4年未満	
	4年～5年未満	
	5年以上	4名

取組の概要

前身の会社で障害者雇用を開始し、当初は社員食堂メンバーとして調理補助の仕事をしていましたが、事務所移転により社員食堂の廃止が決定。従事していた仕事がなくなりメンバーの士気も下がっていた。平成23年に株式会社グランドビジョンとして全員を再雇用し、障害のある社員が「自分たちのやりたい仕事、できる仕事」を社長に提案。自ら仕事を創出するとともに「ホームランチーム」を結成してモチベーションの向上につなげた。

企業の声

中尾 賢一郎さん（代表取締役社長）

私にとって、ホームランチームとの出会いは運命的だと思っています。もともと大学時代に福祉を専攻して学び、一時は社会福祉士を目指していました。私立の三育幼稚園、小学校では障害者の仲間と一緒に学ぶ環境にいたので、ホームランチームと一緒に仕事することに喜びを感じますし、むしろ励みももらっています。

笑顔がホント素晴らしいです！今後の抱負としては、グランドビジョンとしても雇用を増やしていければと思っています。弊社の取組みがさまざまな企業に広がっていくことが理想です。障害者の持つ潜在能力は高いし、もっと社会の表舞台で役立つ環境を整えたいと思います。



「ホームランチーム」のメンバー

社員の声

井上 高志さん【勤続約7年】

清掃業務のほか、パソコン入力の業務にたずさわっています。絵を描くことが得意で、風呂敷のデザインもしています。

落ち込んでしまいそうなときでも、笑顔でがんばっていきたいと思っています。自分で考え、行動していきえるようになりたいと考えています。



狭間 航平さん【勤続約7年】

清掃業務では、社内に加えて会社周辺の掃除を広範囲に行っており、街で声をかけてもらうこともあります。

主にパソコン入力やラベル作成など事務関係の業務にたずさわっています。毎朝、早めに出社したり、ミスのない仕事ができるよう心がけています。



稲田 萌依さん【勤続約6年】

新聞広告のなかから、健康食品、美容、育毛、エステ関係などの広告を切り抜き、スキャンしてデータを残す仕事などをしています。難しかったのですが、できるようになりました。

農園での野菜づくりや、社内販売用の「お結び（おむすび）」、サンドイッチ作りが好きです。



中野 真里さん【勤続約6年】

名刺作成、バッグ・封筒・雑巾などの作成の仕事をしています。

会社の移転時は不安な気持ちもありましたが、社内販売用の「お結び（おむすび）」作りなど仕事は楽しく、この「ホームランチーム」でさまざまな仕事をやっていくことはやりがいがあります。



現場担当者の声

長尾 育恵さん（マネジメント局ホームランチーム リーダー）

スピードや結果が求められる業界ですが、そんななかでホームランチームは社内の潤滑油として大きな役割をになっています。このチームが他の部署の社員と同じフロアで当たり前のように働いていることは、とても意味のあることだと考えています。配属当初は悩むこともありましたが、メンバーを知れば知るほど気付きがあり、視野が広がっていきました。みんな、自分に正直で、不安を抱えながらも「自分達の給料は自分達でかせぐ」という気持ちでがんばっています。

そのなかで、私の役目は「やって見せて、やってもらって、その上でチェックを行う」ことで、メンバーのために「いい環境」を作ることが大切だと考えています。また、スキンシップとコミュニケーションを心がけ、できるだけ時間をとってメンバーの話を聞くようにしています。メンバーといると自分も「素のまま」で穏やかな心を持つことができます。メンバーのみんなに会えて本当に良かったと思っています。



[改善前の状況]

【生じていた課題】

平成22年、前身の会社で障害者雇用を開始し、当初は社員食堂メンバーとして調理補助の仕事をしていましたが、事務所移転により社員食堂が廃止。従事していた仕事がなくなりメンバーの士気が下がっていた。

改善策

1

- 1 モチベーションアップ 2 職務創出 3 社内の理解

障害のある社員たちが、自ら「自分たちのやりたい仕事、できる仕事」を考え、得意分野を伸ばす仕事を創出しモチベーションを向上。

社員食堂の廃止後、社内外の清掃、発送物の封入、郵便物の社内集配、備品発注、名刺作成など、社内の業務を切り出し、職務を創出した。さらに、障害のある社員たちが自分たちの得意分野を伸ばす仕事を自ら考えて社長に提案し、新たな職務を創出した。

①ホームランチーム

障害のある社員の部署の愛称。「カキーンとホームランを打ったときのように、元気に動き回るチーム」という思いが込められており、チームの一員によって名付けられた。自らやりたいことをすぐにチャレンジできる環境を構築している。



③オリジナルグッズの商品化、店舗販売

古民家を借り、個展「人間の色々展」を開催。絵や制作物の販売につなげた。バッグ、絵、コースター、言葉のおみくじなどを販売。また、イベントなどでも出店。



「制作物がとてもいいと思ったので販売につなげた」(長尾さん)

②社内サービス「お助けホームラン隊」の開始

シャツのアイロンかけ、ボタンつけ、軽食・季節のジュース作りと販売など、社員に喜ばれながら社内コミュニケーションを図ることができる社内サービスを展開。自立のための練習の場にもなっており、保護者からも喜ばれている。実践練習も会社で行っている。



社内での要望をきっかけに始めた

紹介

ホームランチームが提供するサービスメニュー



[改善後の効果]

障害のある社員たち全員が自ら考えて職務創出をしたことで、職場にチームとしての一体感と自律性が生まれ、モチベーションが向上した。また、障害のある社員の一人ひとりに仕事に対する強い責任感を醸成することができた。

[改善前の状況]

【生じていた課題】

障害のある社員が、同じホームランチームのメンバーや他の部署の社員とコミュニケーションをうまく図ることができず、孤立することがあった。また、リーダーの指示がうまく伝わらず、やっていなかったり、違うことをすることが多々あった。

改善策

2

4 職務遂行の工夫

5 コミュニケーションの改善・工夫

6 体調管理

7 支援機関との連携

仕事の見える化、社内勉強会に加え、ホームラン新聞やホームラン農園を開始して社内コミュニケーションを強化。家族や支援機関とも連携。

①仕事の可視化

時間割を作って仕事を「見える化」し、毎日、その日にやることを朝礼で伝え、確認を行っている。リーダーは「やってほしいこと」「気をつけること」をメモし、それぞれの社員に渡している。終礼前には振り返りも行っている。

時間割



地域での清掃

よく声をかけられる。地域からは「あたにかい会社」と言われている。

紹介

③家族や支援機関との連携

毎日、リーダー・本人・保護者の三者で連絡帳をやりとりしている。本人は一日の反省を書く。定例保護者会を開催し、本人が会社で働く様子を家族に見てもらったりしている(年2回)。支援機関による個人面談も実施している(2か月に1回)。



「月刊ホームラン新聞」

紹介

連絡帳

②社内コミュニケーション

リーダーはホームランチーム専任とし、障害のある社員が相談しやすい環境を作っている。障害の社内理解のための社員向け勉強会や、家族・他部署の社員も参加するボーリング大会、農園の収穫祭、芋掘り大会などのイベントを開催している。



ホームラン農園

「自然農」で実施。収穫した作物は社内やパートナー企業のなかで消費

紹介

毎月5年間継続している社内広報誌

取材が地域交流にもなっている。会社付近の店舗（飲食店など）にもこのホームラン新聞を置いてもらっている。文章を書くことが苦手だった社員も、今ではすらすらと書けるようになった。インターネットでもホームランチームの活動を発信している。



[改善後の効果]

普段一緒に仕事をしない社員ともコミュニケーションを図ることができるようになった。また、言いづらいことや不安なことを相談しやすくなり、チームの絆、家族との絆、社員との絆、地域との絆が深まり、仕事への自信や意欲を感じることができるようになった。